

11月27日毎日(社会)

原発用埋め立て 免許延長許可

山口県、土曜予定地

中国電力(広島市)が山

口県土曜町で進める土曜原

発建設計画を巡り、県は2

023年1月で期限切れと

なる建設予定地の海面埋め

立て免許の延長を近く許可

する方針を固めた。県関係

者が26日、明らかにした。

県は28日にも中国電力に許可

を報告する見込み。3回目

の免許延長となる。

中国電力は10月26日、海面

埋め立て免許を27年6月ま

で4年より大幅延長するよう

県に申請していた。県は中

国電力に権限譲渡を求めると

なるとして、申請を精査してい

た。埋め立て工事は11年の

東京電力福島第1原発事故

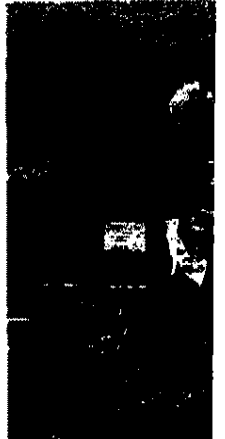
を受けて中断しているが、

県は中国電力からの延長申請

を受け、16年と19年に許可

している。

【山本泰久、堀菜菜子】



「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

上野原 埋め立て免許延長許可

山田養蜂場

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...
 吉原の「おどろきの」...

NHK 各地のニュース
山口県のニュース
NHK山口放送局

上関原発 県が埋め立て工事の免許延長を許可

上関町で進められている原子力発電所の建設計画をめぐって、山口県は、中国電力が申請していた海の埋め立て工事に必要な免許の延長を認め、中国電力に許可書を交付しました。

上関原発の建設計画をめぐって、中国電力は11年前の東日本大震災のあと、建設予定地の海の埋め立て工事を中断していますが、工事に必要な免許の期限が来年1月6日に迫っていることから、10月、期限を4年余り延長するよう山口県に申請していました。

県は審査の結果、指定期間内に竣工できなかつた合理的な理由があり、今後も埋め立てを続行する十分な理由があるとして、28日、平屋副知事が中国電力の芦谷茂副社長に延長を認める許可書を交付しました。

一方で、原発本体の着工の見通しが立つまでは、埋め立て工事をしないよう求める要請書もあわせて手渡しました。

建設計画をめぐっては、地元の同意が得られていないなどとして住民団体が反対していて、県に免許の延長を許可しないよう求めていました。

また、政府はこれまで原発の新增設を「想定していない」としてきましたが、ことし8月、エネルギーの安定供給や脱炭素社会の実現のために原発を最大限活用する新たな方針を打ち出していて、年末までに示される国の原子力政策が上関原発の今後にも影響する可能性があります。

中国電力の芦谷茂副社長は許可書を受け取ったあと記者からの取材に応じ、「上関原子力発電所は将来的な電力の安定供給や脱炭素を進める上で重要な電源で、建設工事が着実に進むよう取り組んでいきたい」と話しました。

その上で、反対している住民団体を裁判で訴えたことについて、「我々としては丁寧に説明をさせて頂いたところだが、今後は法廷の場で我々の思いをしっかりと主張していきたい」と述べました。

県が海の埋め立て工事に必要な免許の延長許可を出したことについて、「上関原発を建てさせない祝島島民の会」の清水敏保代表は「福島第一原発の事故を受けて原発の安全性に対して不信感を抱いている県民も多い中で、県が県民の気持ちを考えず計画を進めることにあきれている。引き続き原発計画の白紙撤回を求めていきたい」と話しています。

【延長許可 審査のポイント】

山口県によりますと、中国電力が申請していた海の埋め立て工事に必要な免許の延長を判断する上で、審査のポイントは2点あったということです。

1点目は、期間内に工事が終わらなかったことに合理的な理由があるかどうかです。

埋め立て工事に先立って行われるボーリング調査をめぐって県は、調査地点の付近で住民側による複数の船舶を停止させる行為が繰り返され、中国電力が調査を終了できなかったとしています。

その上で、中国電力が訴訟によって解決を図ると説明していることも踏まえ、県として合理的な

理由があると判断したということです。

2点目は、埋め立てを続行するのに十分な理由があるかです。

上関原子力発電所は国が電力需給にとって重要だと推進する「重要電源開発地点」に指定されています。

中国電力が国に問い合わせた結果、今後も事情の変化がない限り解除は考えていないとの回答が寄せられたことから、県は埋め立てを続行する十分な理由があると判断したとしています。

これらの考え方について県が3人の顧問弁護士に確認したところ、全員が工事免許の延長を許可すべきという見解を示したということです。

11/28 16:36

ニュース・トップ

NHK山口放送局

対外版トップ / 全国のニュース

(c)NHK

上関原発埋め立て免許山口県許可

3度目延長 住民賛否

山口県上関町が原発誘致を表明し40年たってもなお、本体着工の見通しが立たない中国電力上関原発。その中で県は28日、中電に海の埋め立て免許の3度目の延長を認めた。住民には賛否の声がある。専門家は原発を巡る環境が変化しているとして「許可のあり方を見直すべきだ」と指摘する＝3面関連。(山本祐司)

専門家「状況に基づき判断を」

町まちづくり連絡協議会の古泉直紀事務局長(64)は県の対応を支持し「少子高齢化が進む町で、多くの住民が原発建設を契機とした活力あるまちづくりを望んでいる」と期待を寄せた。埋め立てを含む準備工事は2011年の福島第一原発事故を受けて中断している



上関原発の建設予定地(左前)。県は祝賀(写真)・取材(写真)

が「できるだけ早く再開してほしい」と求めた。町民は10月の町長選で、原発賛成の民意をあらためて示した。7割を超す得票率で初当選した推進派の西哲夫町長(75)は「コメントする立場がない」としつつ

「県も適法とみて判断し許可したのだから」とおもん

ばかった。国の動向を見て、原発に対する町の考え方を国へ訴える方針だ。

県が許可した延長期間は、中電の申請に基づき4年5カ月。不許可を求めていた住民は、諦めない姿勢を見せた。上関原発を建てさせない祝島島民の会の清水敏代表(67)は「県が聞くのは事業者の言い分ばかり。会員の高齢化で運動が厳しくなるのを中電は待っているのだろうか。計画を止めさせる手は緩めない」と力を込めた。

村岡副知事は「中電が期間内に工事を終えられなかった合理的な理由がある」「埋め立て後の土地を使う見込みがある」と許可した理由を説明した。過去2度と同じ内容だった。

広島大の横山信一名誉教授(71)「行政法」は、環境保全や災害防止を前提とした公有水面埋立法の趣旨を踏まえ、08年に県が最初に免許を認めた時と状況が変わっている点を指摘する。「福島の事故や、現在の状況に基づき県は判断しなさい」と強調した。

る障害者のための公衆衛生政策」と題し、英文でA4判5枚にまとめた。

加藤さんは知的障害のある家族がおり、障害者を取り巻く課題に関心を持ってきた。講座や調べ学習を通し、障害者の診療に消極的な医療従事者がいる米国の現状を学んだという。論文では、医療を誰でも公平に受けられる社会を実現するため、医療従事者が障害の知識を学ぶ機会を増やす必要性があると訴えた。

同大から9月に受賞の通知があり、来年8月にカリフォルニア州のキャンパスで表彰式もあるという。加藤さんは「頑張りやが評価されてうれしい。次は日本の政策課題を研究する」と意気込む。

(久保友美恵)

米スタンフォード大から表彰

県立広島高3年加藤さん 障害者と医療 論文評価

広島県立広島高(東広島市)3年の加藤美侑さん(18)が、米スタンフォード大が開いた日本の高校生向けのオンライン講座に参加し、成績優秀者3人に贈られる「スタンフォード・eジャパン・アワード」を受賞した。「広島にいながら米国の最新研究を学ぶことができ、刺激を受けた」と喜ぶ。

加藤さんは2～6月、同大が選抜した高校生約30人と全12回の講座を受けた。米国の教育課題や人権問題など12テーマについて現地の研究者による英語の講義を聞き、参加者同士で議論した。最終課題の論文作成では「米国にお



講座を振り返り、論文に込めた思いを語る加藤さん